

北九州市制50周年記念  
北九州市障害者芸術祭記念誌

～光る夢 輝く<sup>いのち</sup>生命～

KITAKYUSHU DISABLED PERSONS ART FESTIVAL





# はじめに

北九州市では、障害のある人たちが芸術文化活動を通して個性を發揮できる場を提供すること、また障害のある人たちの芸術文化活動をより多くの人たちに啓発することを目的として、平成20年度より北九州市障害者芸術祭を開催しています。

平成20年度は、文部科学省と厚生労働省協力の下、関係者や有識者が集まり「障害者アート推進のための懇談会」が開かれ、障害のある人たちのアート活動を推進するための議論がなされ、芸術としての障害者アートの検証や人材育成、また普及啓発・鑑賞機会の拡大の必要性などが報告書にまとめられた年でもあります。

北九州市障害者芸術祭もそこから回を重ね、北九州市制50周年を迎えた平成25年度は、従来の規模を拡大して、市制50周年記念事業として「第6回北九州市障害者芸術祭」を盛大に開催いたしました。

そしてこの度、この市制50周年を一つの区切りとして、これまでの北九州市障害者芸術祭のまとめとしての記念誌を作成する運びとなりました。

今回の記念誌のタイトル「光る夢 輝く生命<sup>いのち</sup>」は、サリドマイドの薬害のため両肩から数本の指が少し出ているだけの状態で、左目は失明、右目も眼球振動があり弱視という障害のある、障害者芸術祭の企画を担当する職員が考えたものです。

このタイトルには、作品やパフォーマンスなど、創作活動を多くの人に観てもらいたいというひとりひとりの想い

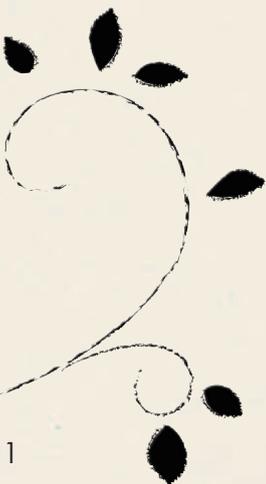
や夢が光となって集まり、その想いが形となって現れた表  
現に「個性」という生命<sup>いのち</sup>を宿し、やがては大きく輝いてほしい、そんな願いが込められています。

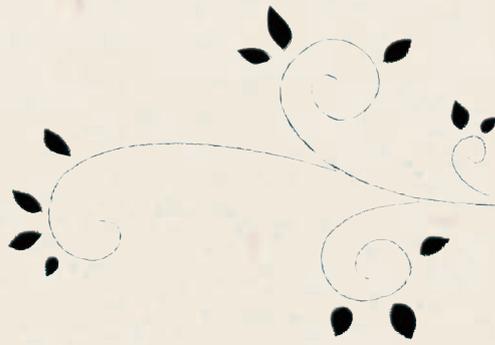
障害のある人たちのアートについては、近年「アールブリュット」や「アウトサイダーアート」などの概念も広まってきました。また、施設での作業やレクリエーションの一環でしかなかった創作活動が、作品そのものの価値の向上とともに商業的な需要を生み出し始め、個人の著作権についてもしっかりと保護されるべきという動きも出てくるようになりました。

この記念誌には6年分の「個性」を可能な限り掲載させていただきます。

この記念誌をご覧いただいて、障害のある人たちのアートの素晴らしさ、可能性について多くの人たちに触れていただけると幸いです。

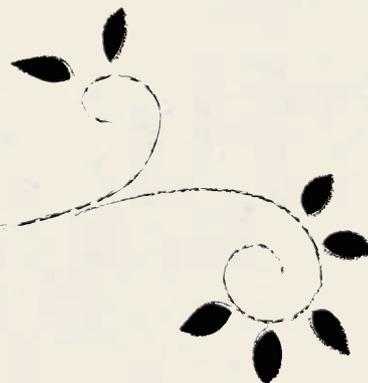
2014年3月





## もくじ

はじめに	1
もくじ	2
北九州市長あいさつ	3
(公財) 北九州市身体障害者福祉協会 理事長あいさつ	4
北九州市障害者芸術祭実行委員会 実行委員長あいさつ	5
第一回北九州市障害者芸術祭	6
第二回北九州市障害者芸術祭	8
第三回北九州市障害者芸術祭	12
これまでの芸術祭の出演者たち①	14
第四回北九州市障害者芸術祭	16
第五回北九州市障害者芸術祭	18
市制五十周年記念 第六回北九州市障害者芸術祭	20
これまでの芸術祭の出演者たち②	28
布川悦子さんインタビュー	30
実行委員からのコメント	31
実行委員名簿	32





北九州市長  
北 橋 健 治

北九州市制50周年を彩るイベントの一つである「北九州市障害者芸術祭」は、障害を抱える方が、日ごろの芸術文化活動の成果の発表を通じて、新たなチャレンジや飛躍のきっかけをつくるとともに、障害への理解と啓発を深めることを目的に平成20年にスタートし、今回で6回目を迎えました。

これまで芸術祭の開催にあたりご尽力いただいた関係の皆様、ご出展・ご出演いただいた皆様、そしてご来場いただいた皆様に、深く感謝申し上げます。

芸術祭は、障害を抱える方による芸術作品の展示と、グループ・団体によるステージイベントで構成されています。

作品展への出展数は、初回が69点でしたが、3回目以降は毎年100点を超える作品が出展され、いずれも、生命力に溢れた、見る者の心を打つ作品ばかりです。

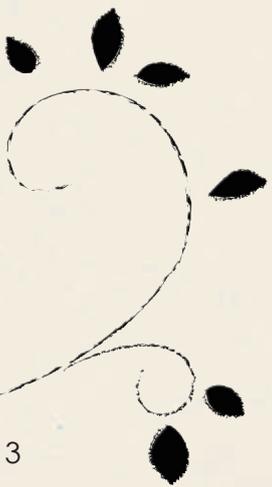
また、ステージイベントにおいては、芸術祭への出演を目指して練習を積み重ねてこられた方や、日ごろから高齢者・障害者施設の訪問などを続けておられるグループなどに、素晴らしいパフォーマンスを披露していただいています。

今回は、北九州市手をつなぐ育成会の「ひまわり写真展」や、教育委員会の「特別支援学校・特別支援学級合同作品展」、北九州芸術劇場のダンスパフォーマンス、平成25年度にオープンした「ひとみらいプレイス」でのワークショップなどの関連イベントが行われ、より多くの方にご参加いただくことができました。

芸術や文化への取り組みは、日常生活を豊かにするとともに、自分自身を表現する場となるものであり、障害を抱える方にとっては、自分らしく社会に参加し、夢と希望を持つて人生を送るための大きな手段となるものです。

さらに、作品やステージ上での姿をご来場の方に見ていただくことは、障害に関する理解を深める上でも大きな意義をもっています。

本市では、障害の有無にかかわらず、全ての市民が、互いの人格や個性を尊重し合いながら、安心していきいきと暮らすことができる共生社会の実現を目指して、引き続き、障害を抱える方の芸術文化活動の支援に取り組んでまいりますので、今後とも、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。



## 理事長あいさつ



公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会  
理事長 柴田 泰博

北九州市障害者芸術祭は、平成20年度から始まりました。当時の企画書を紐解いてみると、「障害のある人たちの芸術及び文化活動への参加を通じて、障害当事者の生きがいや自信を創出し、自立と社会参加を促進するとともに、北九州市民に対する障害のある人たちへの理解と啓発を進めること」を目的とすようになっていました。

芸術祭の内容は、障害のある人たちの写真・絵画・書道・手工芸品の展示と障害のある人を中心としたグループや個人のステージイベントの開催です。

昔は障害のある人たちの芸術及び文化活動の環境が極めて貧しく、彼らが創作するすばらしい作品を展示する機会も、歌・演奏・踊りなどを多くの人々に観てもらう機会も多くありませんでした。

障害のある人たちの芸術文化活動は、とかくチャリティーの対象であったり、作業活動の延長という見方をされ、そこから生まれるものの芸術性については無視されがちでした。

そもそも芸術文化活動は、障害のある人たちにとって重要な社会活動のひとつであり、そうした活動を通じて社会参加の一層の促進が図られなければならないのです。

我が国の障害者問題の取り組みは、従来はいかに生きるか（生存権）に焦点が当てられてきました。今後はいかに豊かに、しかも自分らしく生きるか（個性権）が問われていくことになります。障害のある人ひとり一人の個性が尊重されることが必須であり、彼らの芸術文化活動に対する

支援も不可欠なものとなります。

北九州市制50周年記念という節目の年となった本年度の第6回障害者芸術祭は、市制50周年記念事業として、いろいろな団体・組織と連携して大々的に開催されました。これまで知的障害のある人の写真展開催等で実績のある（社福）北九州市手をつなぐ育成会や毎年、特別支援学校児童・生徒の作品展を開催している北九州市教育委員会と連携し、充実した作品展とステージイベントが開かれ、盛況のうちに終了することができました。

この市制50周年を一つの節目として、関係者にとっては定着してきたこの障害者芸術祭が、北九州市民にとってもっと身近で馴染みのある存在になっていけるように努力してまいりたいと思いますので、これからもご支援、ご協力の程よろしくお願いいたします。

## 実行委員長あいさつ



### ご飯とおかず……そして、アート

北九州市障害者芸術祭 実行委員会  
実行委員長 岩井 菜穂美

「人が生きるのに最低限必要なものは“衣食住”と、私達は学んできました。

確かに食べ物・住む所・着る物がないと、人間は生きていきません。

ただ、それらが整ったとして、人間は幸せでしょうか？最初はそれだけで満足でしょうが、だんだん慣れて生活が単調に感じるようになり、物足りなさから何か楽しくなる事を探し出すのではないかと思うのです。「人間はパンのみにて生きるにあらず」という言葉もあるように、精神的に満たされないと満足できないのが人間なのでしょう。

退屈しのぎに思っている事や、やっている事に節を付けたのが最初で、それが徐々に“歌”になったのかもしれない。大きな獲物を捕ってきて喜びのあまり体が自然に動き出したのが、ダンスの走りかもしれません。

とにかく、人間は自分の思いや行動を言葉以外でも伝えたがる（表現したがる）生き物なのではないでしょうか？それが文化となり芸術にまで高まって、私達は現在その恩恵に預かっているのです。

さて、どの時代でそうなってしまったのかは、分かりません。ですが、「普通じゃない人はここに入って来なくていいよ」というメッセージが様々な場面で発せられるようになり、障害者もその中に入っており、いつの間にか取り残されてしまったのです。

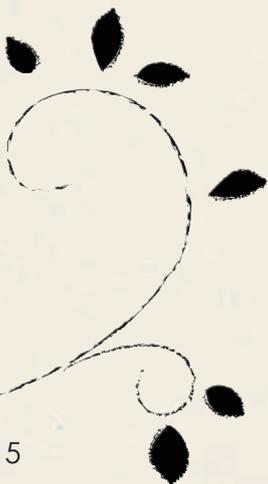
しかし、「障害者も豊かな人生を送る権利がある！」。近年、このことに気付く障害者が増え、いろいろな問題に取

り組み始めたのです。「みんなと同じじゃなくても入れてよ」と。

障害者を取り巻く問題は実に多くあって、しかも一つとして解決に至るにはたやすい道程ではありません。ある時ある人に言われました、「介助等生活に直結するものはご飯で文化活動等はおかずだ。私はいちばん重要なご飯から手を付ける」と。その人の言う事はもっともですし、それで良いのですが、私はご飯もおかずもあつての食事だと思ふのです。

ご飯におかず、両方あるのが当たり前ですし、デザートだって食べたいですよ。

障害者が芸術・文化活動、ひいては一般社会の前面に出てくるのには、まだ時間がかかるでしょう。けれど、当事者や支援者が根気よく「私達も出来るんですよ！」とか「私達のアートも素晴らしいんですよ」と世の中に訴え続ければ未来は明るいし、そのためにも“北九州市障害者芸術祭”の果たす役割は大きいと思います。





ロックバンド with



Express Yourself



車いすダンススポーツ連盟北九州支部



鼗鼓会



Grupo taki

# 第1回

## 北九州市障害者芸術祭

障害のある人たちの芸術・文化活動発表の場を  
 こと等を目的とした、初めての北九州市障害者芸術祭  
 の開催。

第1回芸術祭は、第10回西日本国際福祉機器展と  
 の同時開催で実施しました。

### ステージイベント

開催日：平成20年11月29日(土)

会場：西日本総合展示場

出演：ロックバンド with

Express Yourself

NPO法人日本車いすダンススポーツ連盟

北九州支部ほほえみ会

鼗鼓会

Grupo taki

### 作品展

開催期間：平成20年11月28日(金)～30日(日)

会場：西日本総合展示場

全出展数：作品数69点(絵画51点、書道7点、写真11点)

### ステージイベント

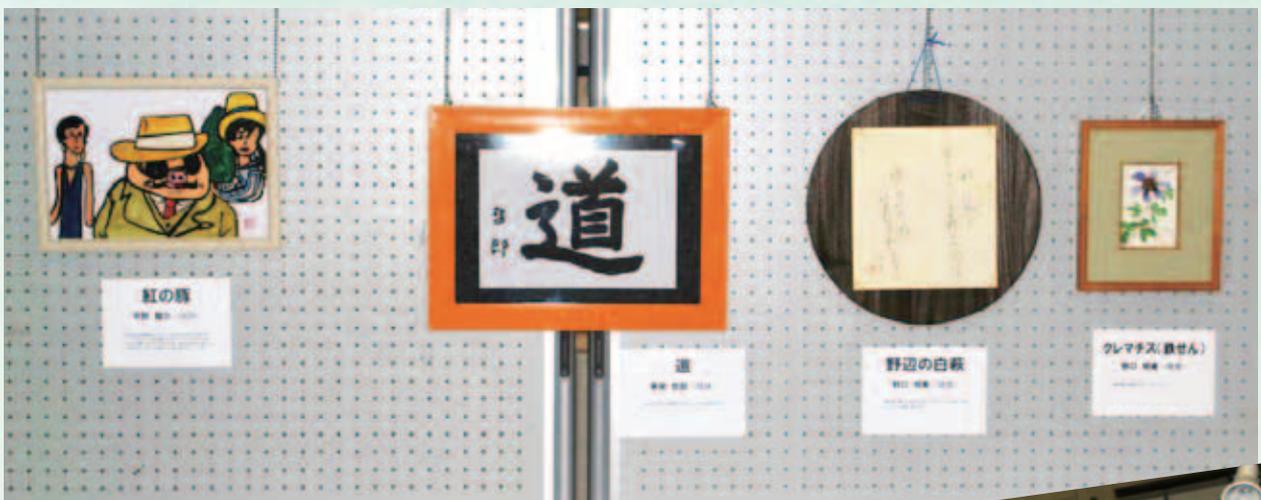


作品出展者へのインタビュー

作品



作品展





# 第2回

# 北九州市障害者芸術祭



安河内由美子



渡邊三喜雄



Pio



佐藤拓也



劇団 MAM



ハッピーエンジェル

第2回芸術祭から障害のある当事者団体、障害福祉関係団体、行政機関で実行委員会を組織し、芸術祭を企画、実施するようになりました。また、この年の芸術祭からステージイベント会場で、作品展優秀作品への表彰を行うようになりました。

触れて楽しむ写真や車いすダンスなど、様々なジャンルのワークショップも6つ開催しました。

作品展は、より多くの人たちにご覧いただくため、戸畑サティ（現イオン戸畑）やイオン八幡東など、複数の会場で開催しました。

### ステージイベント

開催日：平成22年2月14日（日）

会場：ウェルとばた 中ホール

出演：（一般公募枠）

安河内 由美子

渡邊 三喜雄

（推薦枠）

Pio

佐藤 拓也（みち企画）

劇団MAM

ハッピーエンジェル

### 作品展

開催期間：平成22年2月13日（土）～14日（日）

会場：ウェルとばた交流プラザ

開催期間：平成22年2月15日（月）～23日（火）

会場：戸畑サティ（現イオン戸畑）

開催期間：平成22年2月24日（水）～3月2日（火）

会場：イオン八幡東ショッピングセンター

開催期間：平成22年3月22日（月）

会場：中間ハーモニーホール

全出展数：98点（絵画52点、書道14点、写真18点、工芸9点、手芸5点）

## ステージイベント



北橋市長あいさつ

音あそびワークショップ

開催日：平成21年9月20日(日) 会場：東部障害者福社会館 6AB研修室



紫川水上ステージミニライブ

開催日：平成21年9月26日(土) 会場：勝山公園大芝生広場横水上ステージ



ミュージックケア ワークショップ

開催日：平成21年10月12日(月・祝日) 会場：ウェルとばた多目的ホール



きり絵ワークショップ

開催日：平成21年10月31日(日) 会場：ウェルとばた 7階連絡事務室



触れて楽しむ写真のワークショップ

開催日：平成21年11月8日(日) 会場：東部障害者福社会館 6AB研修室



車いすダンスワークショップ

開催日：平成21年12月13日(日) 会場：東部障害者福社会館 6AB研修室



北九州市長賞(1名)

絵画部門



「お花がわらった」 園川 晴菜

作品展受賞作品

書道部門



北九州市身体障害者福祉協会  
理事長賞(4名)

「つき」  
小川 歩美

絵画部門



「秋の情景」 石田 紀一

写真部門



「明日も晴れるかな」 元山 隆典

手芸部門



「秋の収穫祭」 平岡 元子

北九州市障害者芸術祭 実行委員長賞(7名)

写真部門



「しぶき」 日島 亮典



「地上90センチから見た世界」 大石 厚生

絵画部門



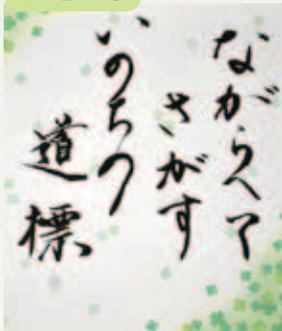
「ダンス“花・風・ソーラン”」 植村 聡

絵画部門



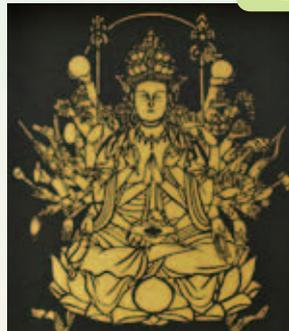
「目」 水上 嘉美

書道部門



「道標」 竹末 咲子

工芸部門



「千手観音菩薩」 友保 徹蔵



「黒点目釉白流し大皿」 山本 弥栄雄



真鍋富誉



カナリア



ちづる



ねむの木



GONZO夢s



チャンチャン劇団

# 第3回

## 北九州市障害者芸術祭

第3回芸術祭から特別ゲストのステージを設け、芸術祭フィナーレを会場の皆さんと一緒に盛り上げようという企画で開催するようになりました。

初めての特別ゲストに藤田恵美さんをお招きし、「OMOIYARI 音楽会」を開催しました。

作品展は、小倉井筒屋の催事場で開催し、多くの人たちにご来場いただきました。

### ステージイベント

開催日：平成22年11月3日(水・祝)

会場：ウェルとばた 中ホール

出演：(一般公募)

真鍋 富誉

カナリア

ちづる

ねむの木

(推薦枠)

GONZO夢s

チャンチャン劇団

(特別ゲスト)

藤田恵美さんによる“OMOIYARI”音楽会

### 作品展

開催期間：平成22年10月28日(木)～11月1日(月)

会場：小倉井筒屋本館 8階催場

全出展数：146点(絵画83点、書道8点、写真19点、工芸30点、手芸6点)

### ステージイベント



北橋市長から記念品を受け取る受賞者



藤田恵美さんによる“OMOIYARI”音楽会

北九州市長賞(1名)

絵画部門



「四次元」 元樹

作品展受賞作品

北九州市身体障害者福祉協会 理事長賞(5名)

絵画部門



「ぼくの夏の森」 伊藤 彬



「私の阿修羅」 渡邊 範子

写真部門



「ここにもボクがいるぞ」 坂本 等

書道部門



「七夕」 植田 博子

手芸部門



「手織りの小物入れ」  
小林 章子

北九州市障害者芸術祭 実行委員長賞(6名)

絵画部門



「羽ばたくピーマン」 石田 紀一



「雨の日の絵」 古賀 誠也



「私の額縁・私の絵」 芝尾 美沙子

写真部門



「朝焼けに白雲」 香田 俊雄

書道部門



「六月」 中川 秀重

工芸部門



「15世紀にタイムスリップ」土釜と土風炉  
田中 満

# これまでの**芸術祭**の**出演者**たち **1**



第1回芸術祭に出演

構成メンバー  
ダウン症、自閉症  
活動人数 11名

## ロックバンド **with**

- Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？  
A 平成20年度に西日本総合展示場のステージパフォーマンスに出場させていただきました。  
お客様の温かい拍手と、出演前の方々の熱い声援のおかげで、その場がひとつになり、とても楽しい時を過ごす事ができました。
- Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。  
A 私達「with」は、結成して20年。  
当時、小学生だったメンバーも今では仕事に就き、バンド活動との両立ができています。  
子供達（もう大人ですが）だけの演奏曲も増え、ステージ内容もより充実してきています。  
バンド内での支えあいもそうですが、障害を持つ青少年のサポーターとして、「地道ながらもにぎやかに」をモットーに、これからも演奏活動を続けていきたいです。

## NPO法人 **日本車いすダンススポーツ連盟 北九州支部**

- Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？  
A 日頃、練習している事を披露する機会に感謝でした。  
普段では味わえない緊張感が新鮮で、皆、イキイキした時間が過ぎました。  
芸術祭が継続していく事が私たちの今後の活動の大きな目標となります。
- Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。  
A 自分たちの表現力や芸術性を日頃の練習でもっと身につけていきたいです。  
芸術祭をはじめ、多くの方々に観ていただく機会を増やしていきたいです。  
通じ合える仲間を増やし活動域に枠をもたず、バリアフリーの精神で、観ていただいた方々に感動を与えられ、自らも生きている事を実感できるようなダンスが踊れるように努力して活動していきます。



第1回、第2回、  
第4回芸術祭に出演

構成メンバー  
知的障害、四肢麻痺など  
活動人数 20名



第1回芸術祭に出演

構成メンバー  
頸椎損傷、サリドマイド  
活動人数 5名

## グループ **タキ** **Grupo taki**

- Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？  
A 普段は初対面の方がほとんどの場所で演奏する事が多く、旅の恥はかき捨て的な気楽さがあるのですが、芸術祭では、イベントがイベントだけに、顔見知りの方も多く、特別な緊張感の中でのパフォーマンスでした。
- Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。  
A 気がつけば、10年以上も活動を続けています。発足当初はメンバーも若く、みなぎる力を全力で込めたパフォーマンスをおこなっていましたが、今やあそこが痛い、ここが悪いといった使い古した身体にむち打って活動しています。これからは無理はせず、年老いて電車の席を譲ってもらえるようになってみんな笑顔で集まって、へたくそな演奏ができる事が展望です。

## Pio (ピオ)

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A たくさんの方が生きいきと活動している事が、とつてもすばらしかったです。私達もステージに向け、がんばって練習をして、本番では大きなステージにすこどキドキしましたが、たくさんのお客さんから拍手をもらい、自分達の自信になりました。友達と2人で歌ったPioの活動は、青春でした。ありがとうございました。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 本人たちに聞いた感想を私母親が代筆いたしました。今は、仕事で2人も忙しくして仲々会う事が出来なくなりました。障害を持っていてもステージで堂々と歌っていた姿は、親にとって本当に頼もしくうれしかったです。よい機会を与えていただき、感謝しています。これからも、ますます障害者が生きいきと活動できる場を作って下さい。生きている限り、人は輝く時を少しでも長く持つ事が出来る世の中であってほしいとすべての人に願います。本当にありがとうございました。(末永 悦子)



第2回芸術祭に出演

構成メンバー  
二分脊椎症と脳性まひ

活動人数 2名



第2回芸術祭に出演

構成メンバー

肢体障害・聴覚障害・身体、精神の重複障害

活動人数 4名

## みち企画

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A ちょうど精神的に落ち込んでいてステージ復帰の場所だったので印象深く覚えています。僕は語りをさせていただきましたが、ステージ発表の部が多種に分かれており、いろんなサークルやグループがある事を知りました。この芸術祭をきっかけにして私達の活動に繋げていければと感じました。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 語りの発表はもちろんの事ですが、近年においては落語にも挑戦しており「みち企画」の中でも落語で招かれる時にはイベント名も「笑話会」と名乗り始めました。

また、平成24年度に開催した匠「3人展」の様に、絵画や切り絵などの展示発表の企画も進めて行きたいと考えています。将来的には音楽と語りのコラボレーションや絵画と音楽の融合などの企画も行いたいと密かに思っています。

## GONZO 夢s (ゴンゾードリームス)

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A 第3回北九州市障害者芸術祭の出場が決まって、五平太部はリーダーと部員5人で一致団結して練習しました。猛練習のお陰で、当日はうまく叩けて、参加者全員大満足しました。これが自信につながり、就職された方もその他の方も現在それぞれに頑張っています。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 平成23年に、会長の森脇先生が添田町に障害者の事業所をたち上げたために、残念ですが10年間続いたGONZO 夢sを続ける事が出来なくなりました。平成23年3月6日にステーションホテル小倉で解散式(お別れ会)を行ないました。解散式には、来賓、リーダー、当事者親子70名が集い、盛大な解散式になりました。その後、平成24年3月11日に添田町オークホールで瑞宝太鼓と友情出演という形で出演させていただきました。



第3回芸術祭に出演

構成メンバー  
自閉的障害児・者、  
知的障害児・者

活動人数 30名(五平太7名)



第3回芸術祭に出演

構成メンバー 知的障害

活動人数 31名

## チャンチャン劇団

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A 障害者の文化活動に理解を示していただき、広く活動の趣旨を伝えていただく、いい機会になったと思います。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A チャンチャン劇団は、知的障害者の劇団として発足し22年目を迎えました。これまで、北は北海道札幌、南は沖縄まで全国各地で公演を実施してきました。海外公演(グアム島、韓国、台湾)も多くの関係者の方々に支援していただき、思い出深いものとなりました。これからもたくさんの出会いを楽しみに「インターナショナル旅一座」を目指して楽しく、元気に活動を続けていきます。



ウィルチェアダンス タワラ



田代 芳嗣



G-dream



The Pure Heart



聖幻会

# 第4回

## 北九州市障害者芸術祭

第4回の芸術祭は、ステージイベント特別ゲストにNHK バリアフリーバラエティーにも出演の全盲の落語家、桂福点さんをお招きし、落語とミニ音楽ライブで会場は笑いの渦で一杯になりました。

ウェルとばた2階交流スペースで開催した作品展では、優秀な作品が多数寄せられたため、特別に北九州市身体障害者福祉協会理事長最優秀賞が設けられました。

### ステージイベント

開催日：平成23年11月20日(日)

会場：ウェルとばた 中ホール

出演：(一般公募)

ウィルチェアダンス タワラ

田代 芳嗣

G-dream

(推薦枠)

The Pure Heart

聖幻会

(特別ゲスト)

桂 福点さんによる、落語とミニ音楽ライブ

### 作品展

開催期間：平成23年11月18日(金)~25日(金)

会場：ウェルとばた交流プラザ

全出展数：100点(絵画47点、書道5点、写真19点、工芸23点、手芸6点)

### ステージイベント



桂 福点さんによる、落語とミニ音楽ライブ



北九州市長賞(1名)

絵画部門

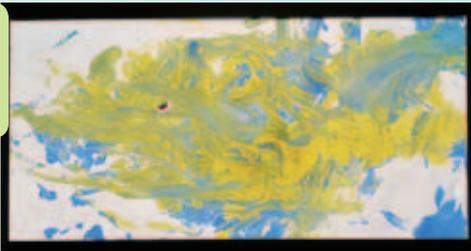


「秋の味覚」 松下 長洋

作品展受賞作品

北九州市身体障害者福祉協会  
理事長最優秀賞(1名)

絵画部門



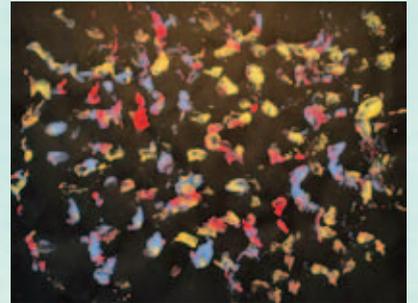
「龍」 奥野 雄也

北九州市身体障害者福祉協会 理事長賞(4名)

絵画部門



「我が家のペット」 甲斐 豊



「夜店の金魚」 森谷 みはる

写真部門



「綺麗な空」  
砂留 美香

工芸・手芸部門



「どうぶつえん」  
木場田 真一

北九州市障害者芸術祭 実行委員長賞(6名)

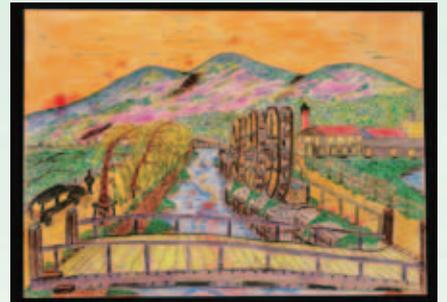
絵画部門



「バイク」 玉木 慎一



「和布刈山よりの夜景」 小笠原 昭夫



「朝倉郡三連水車」 後田 和夫

写真部門



「ほ・か・く」 日島 亮典

書道部門



「花」 野山 実

工芸・手芸部門



「布のリース」 四ヶ所 文恵



谷口 馨



YABKING



戸畑障害者地域活動センター



若松工芸舎



ミュージックケア



鼈鼓会

# 第5回

# 北九州市障害者芸術祭

第5回の芸術祭は、一般公募枠、推薦枠に加えて、障害のある人たちが通っている施設での活動の成果を発表してもらう施設枠を設けました。また東部障害者福祉会館の講座受講生と来場者が一緒に参加するミュージックケアワークショップも開催しました。

特別ゲストステージでは沖縄民謡歌手の古謝美佐子さんによるトークライブを開催。会場全体がその歌声に魅了されました。

作品展はリバーウォーク北九州5階の市民ギャラリーで開催しました。また受賞作品12点は北九州市障害者スポーツセンターアリアス内にも展示しました。

### ステージイベント

開催日：平成24年12月9日(日)

会場：ウェルとばた 中ホール

出演：(一般公募枠)

谷口 馨

YABKING

(施設枠)

戸畑障害者地域活動センター

若松工芸舎

(推薦枠)

鼈鼓会

(ワークショップ)

東部会館講座受講生によるリズム体操・打楽器演奏

(特別ゲスト)

古謝美佐子さんによる歌とトークライブ

### 作品展

開催期間：平成24年11月28日(水)～12月4日(火)

会場：リバーウォーク北九州5階 市民ギャラリー

全出展数：113点(絵画55点、書道18点、写真6点、工芸24点、手芸10点)

## ステージイベント



古謝美佐子さんによる歌とトークライブ

北九州市長賞(1名)

工芸部門



「ランプシェード」 真鍋 富誉

作品展受賞作品

北九州市身体障害者福祉協会 理事長賞(5名)

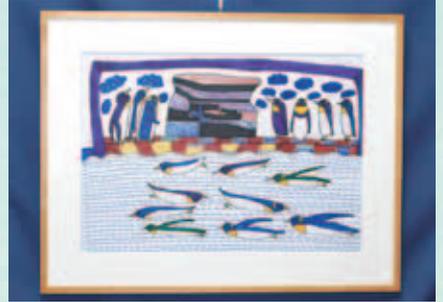
絵画部門



「弟・-蘇生-」 齊藤 紀一



「天を翔ける白馬」 佐藤 久生



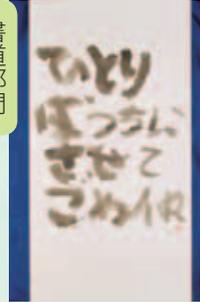
「下関海響館」 齊藤 龍樹

写真部門



「電車の写真」  
磯崎 雅光

書道部門



「ひとりぼっちに  
させて ごめんね」  
新開 美世

北九州市障害者芸術祭 実行委員長賞(6名)

絵画部門



「下関海響館」 馬場 千尋



「ママ」 山崎 悠



「小倉城 お花見 日明リサイクル工房全員の風景です」  
後田 和夫

工芸・手芸部門



「指先のファンタジー」 原楨 奈々恵



「刺繍(線と花)」 楠 真理子

書道部門



「一球入魂」 川添 兼吾

## 市制50周年記念事業

## 第6回

# 北九州市障害者芸術祭



ブレーメンの音楽隊



本城リサイクル工房&聖幻会



綾塚ファミリーバンド



ハッピーエンジェル



キッズダンスシュガーBOX



北九州ファミリープラスひまわり&北九州をうたう会有志

北九州市制50周年記念となる第6回芸術祭は、関係機関・団体と連携し、関連事業としてさまざまな取り組みを行ないました。

ステージイベントはウェルとばた大ホールで開催。地域からの応援による出演では、ブラスバンドとコーラスグループの合同ステージが実現しました。また、特別ゲストステージでは、テレビでお馴染みの青島広志さんと小野勉さんによるピアノと歌のコンサートで会場一体となり、市制50周年のステージを盛り上げました。

作品展は、4月にオープンしたばかりのコムシティ内黒崎市民ギャラリーで開催し、多くの人たちにご来場いただき、障害のある人たちの全部で109の「個性」ある作品を紹介することが出来ました。

### ステージイベント

開催日：平成25年12月8日(日)

会場：ウェルとばた 大ホール

出演：(一般公募枠)

ブレーメンの音楽隊

本城リサイクル工房&聖幻会

(推薦枠)

綾塚ファミリーバンド

ハッピーエンジェル&キッズダンスシュガーBOX  
(地域からの応援による出演)

北九州ファミリープラスひまわり&北九州をうたう会有志  
(特別ゲスト)

青島 広志さん・小野 勉さんによるピアノと歌のコンサート

### 作品展

開催期間：平成25年12月10日(火)~15日(日)

会場：コムシティ3階 北九州市立美術館黒崎市民ギャラリー

全出展数：109点(絵画47点、書道25点、写真19点、工芸13点、手芸5点)

※50周年記念事業につき、表彰はなし。

### 連携事業

ひとみらいプレイスワークショップ

開催日：平成25年11月9日(土)

会場：コムシティ3階 八幡西生涯学習総合センター

(社福)北九州市手をつなぐ育成会 第6回ひまわり写真展

開催期間：平成25年8月28日(水)~9月8日(日)

会場：イオンモール八幡東

特別支援学校・特別支援学級合同作品展

開催期間：平成25年11月14日(木)~19日(火)

会場：リバーウォーク北九州5階 市民ギャラリー

北九州芸術劇場プロデュース

セレノグラフィカ・ダンスパフォーマンスin芸術祭

開催日：平成25年12月14日(土)

会場：コムシティ3階 黒崎市民ギャラリー

## ステージイベント



青島 広志さん・小野 勉さんによるピアノと歌のコンサート



ひとみらいプレイスワークショップ



セレノグラフィカ・ダンスパフォーマンス in 芸術祭  
「サリサリニャーマ」



「ひまわり」 寺崎智代



「レタスととうもろこし」 平野駿介



「冬牡丹を撮る女性」 甲斐 豊



「ほうれんそう」 森 奏絵



「白菜」 河村研太郎



「ねぎぼうず」 大野 葵



「紅葉の並木道と夕日の散歩道」  
竹山勝利



「グリーンパークのバラ」  
井上貴義



「けいとう」 福村恵子



「胡蝶昇龍の舞」 佐藤久生



「美人画」 K. H



「私と門司港」  
ぬのかわえつこ



「ひまわり」 渡邊範子



「あじさい」 曳野道子



「かわいい代表」 月森聡美



「ひまわり」 田中浩二



「ぬか味噌煮」 藤村紀夫



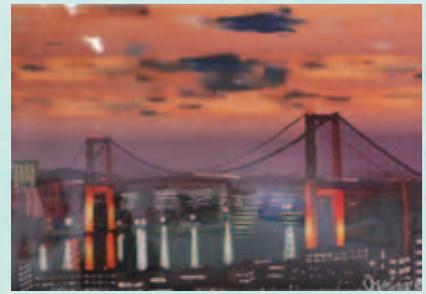
「ほうれんそう」 石江祐一



「走れ、サンタクロース!!」 中島哲二



「黒川鉄橋を渡る筑鉄電車」 吉田浩一郎



「若戸大橋夕景」 小笠原昭夫



「安部山の桜」 馬場廣毅



「北九州市のお花畑」 高橋由紀



「ひよりの丘の仲間たち」 十時保幸



「いのちのたびタイムトラベル」  
白木澄江



「魔法がとける時」  
前野 空



「海」 森重幸雄



「My夢スタッフ「大磯さん」」  
斉藤龍樹



「ひまわりとかまきり」  
桂口正春



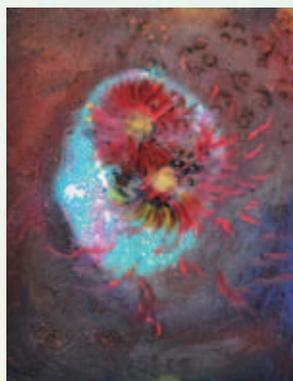
「関門橋」 熊本貴憲



「U.K. さんの顔」 中岡勇輝



「石永君」 満生秀次



「おりひめとひこぼしの川」  
早川沙由里

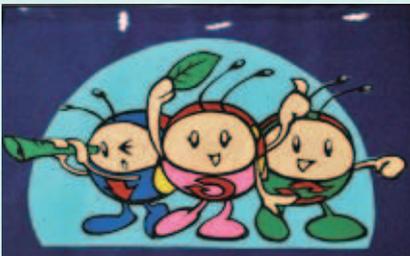


「北九州の好きな場所」  
長与克則



「クリスマスツリー」  
井口智美

工  
芸



「環境ミュージアム(マスコット未来ホタル)」  
友保徹藏



「代表と扇風機」 石永淳二



「わかとおおはし」 小園正吾



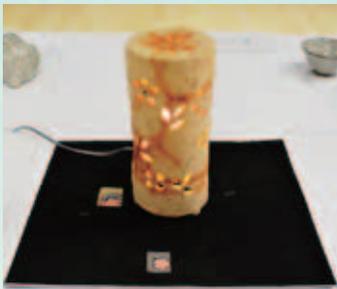
「乾杯メリークリスマス」 原楨奈々恵



「大好きな北九州」 川添兼吾



「春爛漫のボケの花」 大塚雄樹



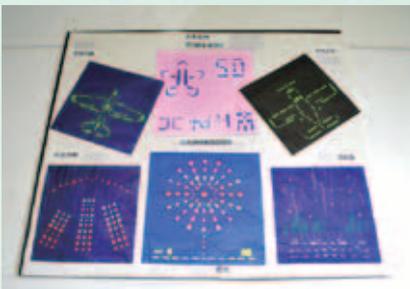
「緋襷インテリアライト」 山本弥栄雄



「好きです北九州」 三次祥隆



「My 夢第1作業所から見た景色」 福田しずか



「切り絵を求めて」 山本正伸



「小倉のチャチャタウン」 高宮純子



「お花いっぱい」 馬場千尋



「湯呑 (かっぱ・ふくろう)」 真鍋富誉



「わっしょい! てんこもり」 水上嘉美



「花とかたつむり」 緒方彩織



「スタンドグラス<ユウヤ>」 葛島優也



「若戸大橋」 齊藤紀一



「チューリップ」 木村公美



「もう1つの小倉城」 坂口祥子



「白光乃甲冑」 伊藤直人



「ステンドグラス<ナオミ>」 松島直己



「私の好きな空」 福田昌子



「いつもそばに…」 風間純一郎

写真



「目」 濱村 榮



「天までとどけ僕らの夢」 坂本 等



「韓国のきれいなお花」 荒木美幸



「マグカップとお皿」 野田和夫



「水の上のキャンパス」 村田孝行



「彩・華」 高城 勝



「カップ(柄つきの小さなカップ)」 石田美奈子



「赤い絆」 白石景子



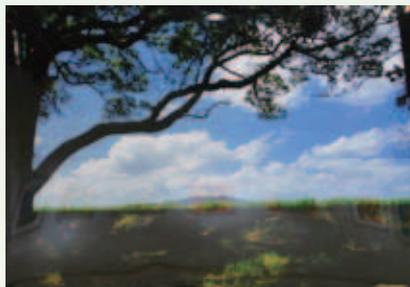
「とある小径」 生田 誠



「ごはん茶わんとおかず入れ(皿)」 津山重治



「僕も戸畑を支えています」 山本恒義

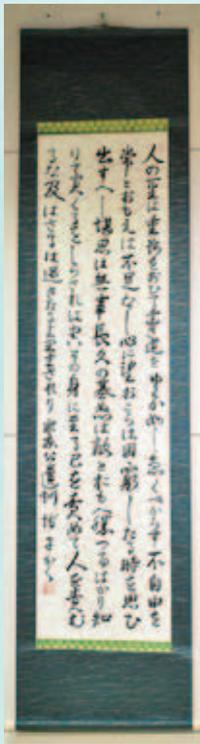


「遠い記憶 50th」 岩下真弓



「湯のみとふくろう」 吉岡佑樹

「東照公遺訓」 植田博子



「将来の夢」 事柴哲郎



書道



「花とボランティアさん」 西村昭人



「空への道」 石井和枝



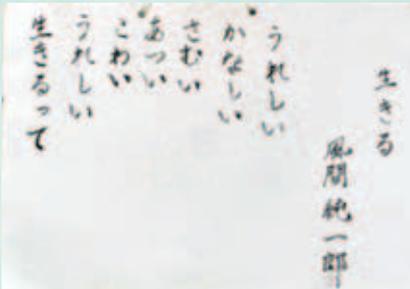
「ナデシコかわいく咲いた」 行徳香織



「祭りだ！山笠だ！北九州だ！」 元山隆典



「北九州ひまわり」 早川幸恵



「生きる」 風間真由美



「手さげ袋」 高濱鶴子

手芸



「AKB48」 西川 遥



「福岡県豊前市宇島祇園踊り車ひろう」 御木大市郎



「クリスマス・リース」 丸山郁子



「ローズハーモニー」 大和太郎



「関門トンネルから北九州へ」 磯崎雅光



「余り布が生き返ったよ」 Y・H



「蛇の目傘」 坂本ミヤ子



「見えないバス。」 藤好香織

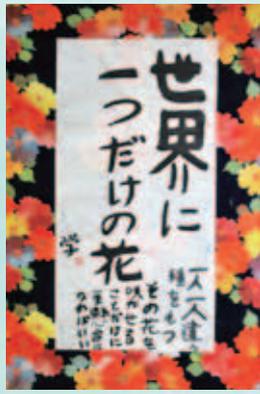
「つる」 古江義典



「ほし」 青木光江



「世界に一つだけの花」 陶山 学



「翔る」 中川秀男

「くちなし」 島崎礼子



「名月」 富村一文



「仲秋」 中居美沙子



「黄金」 新開美世

「生きる力」 栗野隼人



「まる」 丹波正敏



「努力」 石川幸次



「般若心経」 平野めぐみ

「春夏秋冬」 野山 実



「生きる力」 井出敬子



「一期一会」 奥浦浩行

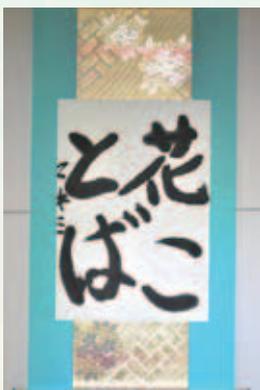


「人生はいつでもこれから」 未見田 憲

「わっしょい百万」 福井美佳



「花ことば」 池永真貴美



「柳緑花紅」 藤川信恵



「日々是好日」 武内 均

「米芾芭溪詩卷」 池内公彦



# これまでの**芸術祭**の**出演者**たち **2**



第1回(推薦枠)、第5回芸術祭に出演  
構成メンバー  
肢体障害  
活動人数 1名

## YABKING

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A 芸術祭には2度程出演させてもらって、素晴らしいイベントだと思いました。ただ、1年に1回しか開催できないのは正直勿体ないと感じます。このようなイベントが、年に2〜3回行われると、社会参加へのきっかけにもなると思うし、出演された方達の「自信」へ繋がります!!

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 今後の展望としては、LIVEを見てくれる人を楽しませたり驚かせたりして、常に進化をする事を目標とし、障害者・健常者関係なく「皆、一つの命を持った同じ人間」という事を伝えていながら、プロのHUMAN BEAT BOXERを目指し、夢である「\*HUMAN BEAT BOX 世界一」になりたいと思います。

※ HUMAN BEAT BOX (ヒューマンビートボックス) とは

手を口に当てたり舌を使って、口や鼻からレコードのスクラッチ音やリズムマシンのミキシング音などを基本的に1人で全て再現し、ビートを作るテクニクのこと。

## 小倉祇園太鼓保存振興会 鼈鼓会

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A メンバーが集まらないと参加できませんが、今太鼓派遣が少なくなっている中、たくさんのお客様の前で打たせていただいたことに大変感謝しています。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 障害を持っていて外出ができない方に対し、施設などに行って直接太鼓を打ちたいです。



第1回、第5回芸術祭に出演

構成メンバー  
聴覚障害

活動人数 約15名



第2回、第6回芸術祭に出演

構成メンバー  
現在は14歳から30歳の知的障害のあるメンバー。  
中には聴覚障害と重複障害のメンバーもいます。

活動人数 10名

## 知的障害者のモダンバレエ **ハッピーエンジェル**

Q 芸術祭に出演してみたいかがでしたか？

A 市政50周年の節目の芸術祭に、推薦枠より出演させていただけた事を誇りに思います。共にモダンバレエで活動している「シュガーBOX」さんとの初コラボが実現でき、一緒にレッスンをすることでお互いに刺激を受けました。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 昨年6月に名古屋で開催された「全国知的障害児者ダンス選手権」に、九州代表で出場させていただき、惜しくも準優勝でした。今年は優勝を目指します！優勝後は、オーストラリアで世界大会が待っているそうです。生徒は、24時間テレビに出演したいそうです(笑)。また、この度、芸術祭で他団体とコラボをさせて頂き、共にレッスンを行う等、大変貴重な経験をさせていただきました。今後も踊りを通して交流を持てればと思います。

## The Pure Heart (ピュアハート)

Q 芸術祭に出演してみてもいかがでしたか？

A 福岡県筑紫野市を拠点に、年間 50 回ほど、色々な所から演奏依頼をいただき、音楽を通して楽しく知的障害の理解と関心を持っていただいています。芸術祭を通して、北九州の皆さまともご縁ができ、その後もコンサート依頼を頂戴し喜んでおります。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 東日本大震災後は「被災した知的障害者施設復興のための義援金」を募りながらコンサートしています。毎年 6 月に石巻市・宮古市の施設を訪ね、義援金をお渡しし、コンサートで福岡の元気をお届けしています。今後も東北支援を継続しながら、東京オリンピックの選手村での演奏を新たな夢に頑張っていこうと思っています。「ハンディがあるから出来ること」に、これからも挑戦していきます！



第4回芸術祭に出演

構成メンバー

ダウン症 5名

知的障害 2名

指導者 1名

活動人数 8名



第4回、第6回芸術祭に出演

構成メンバー 知的障害児・者

活動人数 6名

## 聖幻会

Q 芸術祭に出演してみてもいかがでしたか？

A 日頃の練習の成果を、大舞台上でスポットライトを浴び、観客の方からたくさんの拍手をいただき、今後の励みとなりました。主催者、舞台スタッフの方々に心より感謝です。

Q 今後のグループの活動の展望をお書き下さい。

A 黒崎のコムシティ 5 階の西部障害者福祉会館和室で練習した成果を、地域の老人会やイベント会場で発表し、交流を深め、多くの方々と「楽しみ」を共有していきたいと思えます。「余暇活動」が「良か」活動になる事を目標にしています。

## 綾塚ファミリーバンド

Q 芸術祭に出演してみてもいかがでしたか？

A 20 分間の持ち時間でしたが、会場の皆さんとご一緒に楽しむことが出来、良かったと思えました。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A このバンドのメンバーの半数が高齢者となりましたので、早晩活動を終わらなければなりません。それでも、当分の間は、お招きが在れば活動して行きたいと願っています。これからも、聴いてくださる皆さんとご一緒に楽しめるコンサートを心がけてまいります。



第6回芸術祭に出演

構成メンバー 視覚障害者

活動人数 4名



第6回芸術祭に出演

構成メンバー

知的障害

活動人数 11名

## キッズダンス シュガーBOX

Q 芸術祭に出演してみてもいかがでしたか？

A 日頃はいろいろな音楽に合わせて楽しく踊っていますが、芸術祭参加にあたり一つの作品として曲を選び、心を込めて踊りました。衣装や照明の力を借りて私たちの伝えたいことがとても素敵に表現できて嬉しかったです。

Q 今後のグループの活動の展望をお聞かせ下さい。

A 3 歳児と結成から 14 年という長い年月、ダンスを通して心と体を解放し、笑顔の絶えない時間を共有してきました。時には、ダンスのコンクールやイベントに参加することで、振付を覚えたり、舞台袖の緊張感を味わってずいぶん成長しました。ママたちも衣装づくりが上達しました。これからも変わらずに、楽しく踊ります。楽しい、嬉しい、きれいな、優しい・・・!! そんな感情を、精一杯表現し続けます。一緒に踊りたい方、どなたでも歓迎します。

# 布川悦子さんへのインタビュー



布川悦子さん

**永松** 布川さんはイラストレータとして活動をされていますが、イラストを描くようになったのはいつ頃からですか？きつかけは？

**布川** ひとりでいることが好きな子だったので、三歳頃から確か家にあつたクレヨンでいろいろ描き始めたと思います。テレビのアニメがすごく新鮮に見えて、たくさんイラストを描いていく中で、いつしかこんなイラストを描いて食べていけたらと思うようになっていました。でも母親からは日本舞踊を習うように言われ、あの頃は踊りを習いながらイラストを描いていましたね。

**永松** 日本舞踊？いつ頃まで習っていたんですか？

**布川** 小学校六年まで習いましたが、三年生の頃には日本舞踊はギブアップな状態でした。その頃は友達もできていて、遊びたかったですし。でも、練習をしなくちゃいけない、だんだん心が病んでいき、本当はイラストが描くことが好きなのに人前では絵を描くことが嫌いな自分を演

じるようになり、本当の自分が分からなくなっていました。

**永松** 布川さんの障害のことを聞いていいですか？

精神に障害のある方は、状態が悪い時と良い時とで差があると聞きますが、布川さんの場合はどうですか？

**布川** 気持ち沈んでしまい、自分でどうしていいかわからなくなる時があります。そういう時はひとりであるのがとても怖かったです。

**永松** 私が布川さんとイオン八幡東（第二回障害者芸術祭作品展会場）で初めてお会いした時は、お一人であられたので、状態が良かった時だったんですね。

あの時に名刺をいただいて、その後第四回、第五回の芸術祭のチラシ、ポスターのイラストをいきなりお願ひしたわけですが、依頼を受けた時はどう思いました？

**布川** あのころはやたらと絵が描きたくて、依頼が欲しくていろいろな場所へ出かけては名刺を配っていました。自分の居場所が欲しかった



です。だから嬉しかったですね。でも、依頼を受けた時はちょうど絵を習っていた最中だったのと、障害があるからつてなめられてはいけないと思ひ込み、心に砦を作っていました。後から考えたならそんな風に思わなくてもよかったです。

そんな思いで描いたイラストだったので、第四回芸術祭の時はきちんとできていました。でも自分の中ではこれは私の絵じゃないって思ひ込んで、あまり気に入らなくて…。

だから、第五回芸術祭のイラストのほうが、何も縛られずに自分らしく楽しく描けました。

**永松** 布川さんの今はどうですか？

**布川** 精神に障害があると、なかなか障害のことを周りの人たちに言えずにいます。障害があることを話すと引いてしまわれることが多かったからです。

でも、今は障害があつて良かったなつて思うときもあります。多くの人たちと出会い、障害のことを知ってもらう人が増えたので、イラストが描けるときは描けるし、体調が悪い時は描けない。そのことを理解してもらえようになりました。

私の居場所がある、そう思うと安心できます。

**永松** まだまだ話を聞きたいんですが、時間がなくなってきましたので、

最後に今後の布川さんの活動についてお聞かせください。

**布川** バイトでもいいのでやっぱり絵を描く仕事に関わりたいですね。今までもイラストを通して多くの人と出会うことができましたし、自分の障害も話して、知ってもらえるようになりたいです。

今後も体調を見ながらイラストを描き、活動していきたいです。

**永松** これからも頑張ってください。ありがとうございます。

聞き手 身障協会職員  
永松 玲子

## 第5回芸術祭 チラシのイラスト



### 布川 悦子さんプロフィール

福岡県北九州市在住 1979年生まれ  
過去に北九州タウン誌「おいらの街」の  
コラム「えつこのひとりごと」に  
イラストと詩を連載。  
また、門司港大阪商船ホール、三井  
倶楽部など、各地で個展も開催。

# 実行委員からの コメント

もっとたくさん笑顔があつめたい。

NPO法人 北九州市視覚障害者自立推進協会 あいず  
水上 嘉美

芸術祭では毎年、ステージイベントでも作品展示会の会場でもすてきな笑顔が見られます。

ステージイベントでは、大きなステージの上で一生懸命歌ったり、踊ったりして、とても楽しそうですし、特別ゲストの面白いお話や素敵な音楽に会場中が一緒になって笑ったり拍手をしたりしています。

作品展では自分の作った作品や描いた絵画の前で記念写真を撮ったり、家族や友達作品を見に来た人、初めて障害者作品を見た人もみんな会場を出る時は笑顔になっています。

これからも、この笑顔をもっともっと増やせるように、芸術祭の事を知ってもらえるよう努力して行きたいです。

ソーシャルファーム高山(株)  
高山 多美子

障害者の芸術活動は、余暇活動を中心とした生きがいづくりやリハビリ向上のため、そして自己表現できるものとして多くの可能性が生まれます。また障害者アートの芸術性を高めていくことにより、作り手を社会的に支援することにもつながります。多くの美術家が創作活動により生計をたてているのと同様、障害の有無にかかわらず才能のある芸術の担い手として認められることで社会参加が促され自立した生活も実現可能となります。

今、北九州市がすすめている「NUKUMORI(ぬくもり)プロジェクト」においても障害者アートであたたかい商品の開発に取り組んでおります。

北九州市障害者芸術祭を通じ、障害者アートの心のやさしさを発表することで、福祉と社会のきずなをいっそう深めることができたら、すばらしいと感じます。ますますのご発展を期待いたします。

(公社)北九州市障害福祉ボランティア協会  
元事務局長 黒岩 淳

芸術祭にも長く関わってきました。そろそろメンバーの刷新が求められてるかもしれません。どんなに優れたメンバーであっても、どうしても淀み、画一化してしまいます。常に新しい刺激と発想、問題意識が必要です。

当初からの課題で、障害者作品として評価するのか、純粋に作品を評価するのか。あるいは、発信する貴重な機会であり、理解のきっかけと捉えるのか、自己表現の余暇活動にとどまらない、社会実験の機会なのか。なかなか、明快な答えはありません。けれども、社会的イノベーションとして、新たな選択肢が必要なのかもしれません。タブーを乗り越える番組「バリアフリーバラエティー：バリバラ」であったり、作品と企業のコラボである「good job! プロジェクト」であったり、新たな価値の創出の機会として、芸術祭が機能していくことが求められています。

障害のある人たちの芸術文化活動の支援を、今後、芸術祭を通してどのように進めていけばよいか

(社福)北九州市手をつなぐ育成会  
本部事務局 松崎 貴之

障害のある人たちの芸術文化活動については、近年、「エイブルアート」、「アウトサイダーアート」、「アール・ブリュット」等と呼ばれ、日本だけでなく世界中で注目を集めています。アート活動とは、自分らしさを表す一つの表現方法であり、専門的な美術教育を受けているかとか、障害があるかとか、そういうことはまったく関係ありません。アートは純粋で自由な自己表現の発露なのだと考えます。その意味で、障害のある人たちの作品が、観た人たちに斬新な面白さや感動を届けられたら、それはまさに、障害のあるなしとは関係のない「アートの力」なのだと思います。

障害者芸術祭は北九州の地で毎年開催され、今年で6回目を数えました。その間、多くの人たちに純粋で自由なアートの力をお届けしてきたに違いありません。これからも、気軽に参加できる地元の芸術祭として、障害のある人たちの芸術文化活動を支援し続けてほしいと思います。

「北九州市障害者芸術祭」に携わって・・・

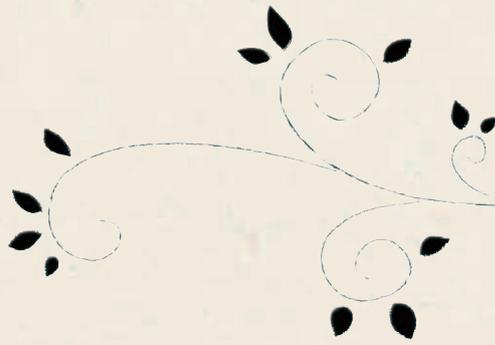
北九州市手をつなぐ育成会(親の会)  
国家 綾子

北九州市障害者芸術祭も25年度に第6回を無事終えましたが、私は実行委員会形式になってから5年間、重度知的障害者の親の立場から芸術祭のあり方を考えてきました。

芸術祭や作品展の舞台で、日常の中で楽しんでいる事、好きな事を多くの方に知ってほしい。自分を表現できる場所があれば後は作品が一人で歩きます。私たちはその場所作りを提供するだけです。

音楽やダンス、絵画、陶芸、手芸 etc. その人(作品)が輝くためにはどうしたらいいのかと議論を重ねていきました。また、観客として障害者本人が楽しめるような舞台にしたいとも思いました。「あの子がこんなふうにできるなんて・・・」「どんな練習してるんだろう?」とか「素敵だな」「私もやってみたい」とか舞台と観客席の一体感が生まれたら素敵だなあといつもわくわくしながら本番を待ちます。

これからも北九州市障害者芸術祭を支えるために、いろいろな方が参加して「本人の表現する場所」を面白いアイデアで創ってほしいと思います。



## 北九州市障害者芸術祭実行委員会 委員名簿

### 肢体障害者

岩井菜穂美（第2回～第6回芸術祭実行委員長）平成21年度～平成25年度

### 聴覚障害者

山田 定子（NPO法人 北九州市難聴者・中途失聴者協会）平成21年度

船越 喜子（NPO法人 北九州市難聴者・中途失聴者協会）平成22年度～平成25年度

### 視覚障害者

水上 嘉美（NPO法人 北九州市視覚障害者自立推進協会あいず）平成21年度～平成25年度

### 知的障害者親の会

国家 綾子（北九州市手をつなぐ育成会）平成21年度～平成25年度

### 精神障害者支援者

高山多美子（ソーシャルファーム高山(株)）平成21年度～平成25年度

### ボランティア団体

黒岩 淳（公益社団法人 北九州市障害福祉ボランティア協会）平成21年度～平成25年度

### 知的障害者団体

松崎 貴之（社会福祉法人 北九州市手をつなぐ育成会）平成25年度

### 行政機関

北九州市教育委員会指導部特別支援教育課

北九州市保健福祉局障害福祉部障害福祉課

### 事務局

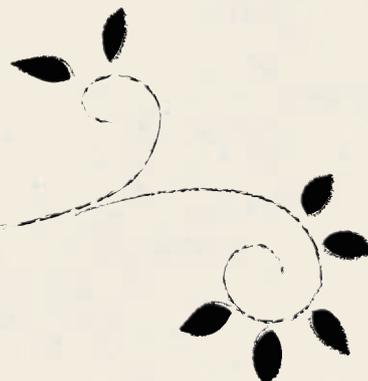
公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会

松本 大史

永松 玲子

辻 晴美

松崎佐知子



北九州市制 50 周年記念 北九州市障害者芸術祭記念誌

～光る夢 輝く生命 (いのち)～

発行日 平成 26 年 3 月

発行 北九州市

公益財団法人 北九州市身体障害者福祉協会

〒 804-0067 北九州市戸畑区汐井町 1-6 ウェルとばた 6 階

TEL (093)883-5555 FAX (093)883-5551

印刷・製本 株式会社 マツモト



